



〔海の状況(6/21~7/20)〕

神子表面水温……期間の前半は、はなはだ高め(平年より2°C程度高め)、後半は、かなり高め(平年より1~1.5°C程度高め)からやや高め(平年より0.5~1°C程度高め)で推移した(図1)。

米ノ表面水温……期間の前半は、かなり高めからはなはだ高め、後半になると天候による変動はみられるものの、平年並み(平年より±0.5°C)で推移した(図2)。

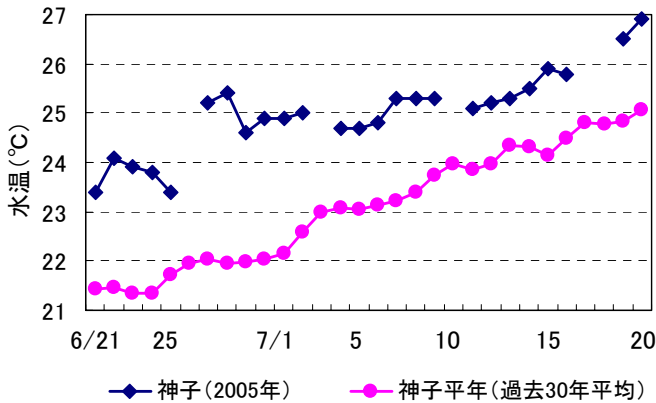


図1 若狭町神子地先における表面水温の推移

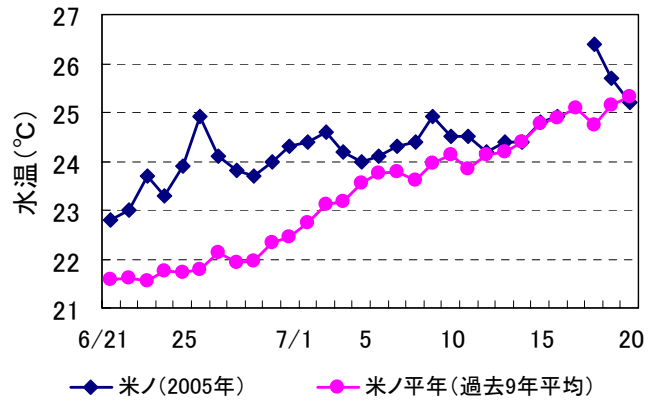


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

100m深水温……沿岸域には15~16°Cの水域が広がっていた。

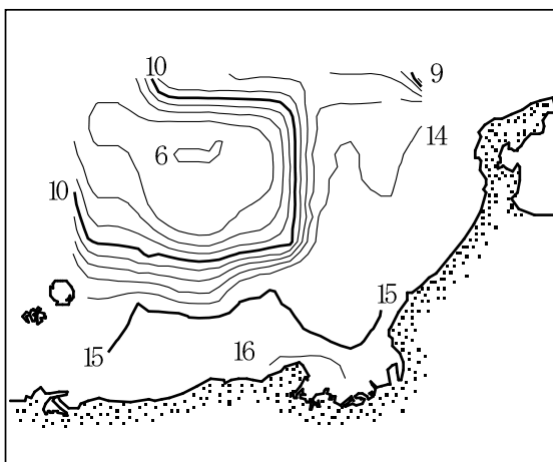


図3 2005年7月上旬の100m深水温

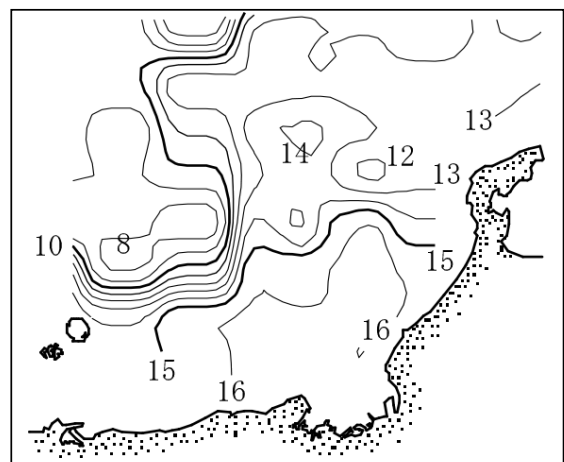


図4 2004年7月上旬の100m深水温

平成17年度第2回日本海海況予報

日本海区水産研究所が、平成17年7月から9月までの日本海海況予報を発表しましたので、関係部分を紹介します。

- 山陰・若狭沖冷水域は、3月から6月にかけて規模はやや小さく離岸していた。今後の張り出しは“やや弱め”で推移するでしょう。
- 対馬暖流域の表面水温は、3月から6月にかけて一部の海域を除き概ね“平年並み”から“やや低め”で推移していた。今後は“平年並み”で経過するでしょう。
- 対馬暖流域の50m深水温は、“かなり高め”(1~3月平均)から“やや高め”(4~6月平均)で推移していた。今後は“やや高め”で経過するでしょう。

(松宮 由太佳)

〔漁の模様〕

2005年6月の県内の総水揚量は1,262tで、2004年同月を661t下回った。カタクチイワシ(2005年;28t, 2004年;14t)、サバ類(45t, 21t)、スルメイカ(287t, 182t)、ケンサキイカ(17t, 5t)等は上回ったものの、アジ類(318t, 655t)、ブリ類(79t, 486t)、フグ類(14t, 26t)等は下回った。

漁業種類別の状況

定置網 ……カタクチイワシ、サバ類、マグロ類、ケンサキイカ等は上回ったものの、アジ類、ブリ類、フグ類等は下回り、全体で754t下回った。

底びき網 ……その他カレイは下回ったものの、アカエビ等は上回り、全体で12t上回った。
(小型底曳網漁は、6月から8月は休漁期となっています)

釣り・他 ……ブリ類 [ハマチ銘柄]、マダイ、タコ類等は下回ったものの、キダイ、アマダイ、スズキ、ヒラメ、メバル類、スルメイカ等は上回り、全体で81t上回った。

〔県内主要漁業の6月の漁獲量〕

(調査対象市場：三国・越廼・敦賀・早瀬・小浜の各漁連支所、福井市※(2005年の定置網を除く)・越前町・若狭高浜の各漁協)

(単位:kg)

定置網			
魚種	2005年	2004年	95-04平均
カタクチイワシ	28,452	14,194	29,182
アジ類	317,552	654,991	420,419
サバ類	44,966	21,412	33,856
マグロ類	5,490	632	5,574
カツオ類	1,107	148	5,248
ブリ類	77,875	477,107	95,605
ヒラマサ	298	1,019	2,677
サワラ	43,893	40,698	14,148
トビウオ	136,093	136,063	137,238
マダイ	10,780	13,191	11,832
スズキ	5,938	4,825	2,445
ヒラメ	1,814	1,675	1,401
カマス	4,680	8,083	9,030
フグ類	13,578	25,908	17,386
タチウオ	1,149	316	445
スルメイカ	11,994	11,919	17,749
アオリイカ	499	464	1,832
ケンサキイカ	15,343	4,570	26,662
その他	18,342	76,755	57,494
合計	※ 739,843	1,493,967	890,225

釣り, 延縄, さし網, その他 のつぎ			
魚種	2005年	2004年	95-04平均
スズキ	8,380	5,499	5,222
ヒラメ	7,013	3,694	3,846
その他カレイ	5,638	5,329	5,215
フグ類	367	81	81
タチウオ	814	1,217	474
アナゴ	4,938	6,358	7,930
メバル類	6,357	4,082	5,455
キス類	664	763	815
スルメイカ	274,534	170,295	344,758
アオリイカ	693	471	698
ケンサキイカ	1,980	556	12,070
コウイカ	755	650	910
タコ類	34,731	41,992	44,297
その他エビ	2,645	2,518	2,488
その他	98,781	120,268	96,463
合計	469,401	388,134	551,544

底びき網			
魚種	2005年	2004年	95-04平均
アカガレイ	816	872	4,099
その他カレイ	786	2,340	5,235
キス類	80	1,435	1,644
アカエビ	37,377	29,178	36,953
その他エビ	3,088	2,719	5,959
その他	10,778	4,632	11,662
合計	52,925	41,176	65,551

釣り, 延縄, さし網, その他			
魚種	2005年	2004年	95-04平均
アジ類	557	254	1,050
ブリ類	847	9,390	3,375
マダイ	3,668	5,462	6,908
キダイ	5,322	2,741	2,347
クロダイ	584	550	815
アマダイ	10,133	5,963	6,325

総計	2005年	2004年	95-04平均
	1,262,169	1,923,276	1,658,140

〔近府県の漁模様〕

(6月下旬から7月中旬の漁獲状況……1日1隻または1統あたり。京都府の定置網漁獲量は舞鶴漁連への1日あたりの水揚量。)

石川県 …… 定置網 …… アジ266kg、トビウオ類109kg、サワラ32kg、サバ30kg
 京都府 …… 定置網 …… カタクチイワシ16.2t、マアジ7.3t、サワラ1.2t、トビウオ1.0t
 兵庫県 …… 定置網 …… アジ404kg、サバ376kg、丸アゴ234kg、ツバス86kg
 鳥取県 …… まき網 …… マアジ5.9t、ウルメ2.3t、マサバ0.7t、

(松宮 由太佳)

平成17年スルメイカ漁場一斉調査結果

日本海側の各試験研究機関によるスルメイカ漁場一斉調査が、6月下旬から7月上旬にかけて行われましたので、その結果についてお知らせします。

(1) 福井県の調査結果

福井県沖合の4定点において、釣機6台を用いて毎晩約8時間ずつ釣獲試験を行った。

- ・漁場水温・・・表面水温は21.5～23.3℃（前年同期22.6～26.1℃）で、50m深水温は13.2～18.4℃（前年同期14.0～18.6℃）であった。
- ・漁獲状況・・・総漁獲尾数は1,505尾（前年2,480尾）、CPUE（釣機1台1時間あたりの漁獲尾数）は平均7.2尾（前年15.5尾）で、昨年を大きく下回った。
- ・体長組成・・・胴長（外套背長）は、7月7日の最も岸寄りの調査点は小型個体（15cm未満）が多かったものの、概ね20cm前後の個体が主体であった。

月 日	7月4日	7月5日	7月6日	7月7日
調査位置	N 36° 40.2' E134° 59.8'	N 38° 0.2' E134° 59.8'	N 38° 20.2' E135° 39.8'	N 36° 20.2' E135° 39.8'
漁獲尾数	204	621	205	475
CPUE※	4	12	4	9
平均胴長 (cm)	20.8	19.9	19.8	15.8
表面水温 (°C)	21.5	22.0	23.1	23.3
50m深水温 (°C)	13.2	14.8	14.8	18.4

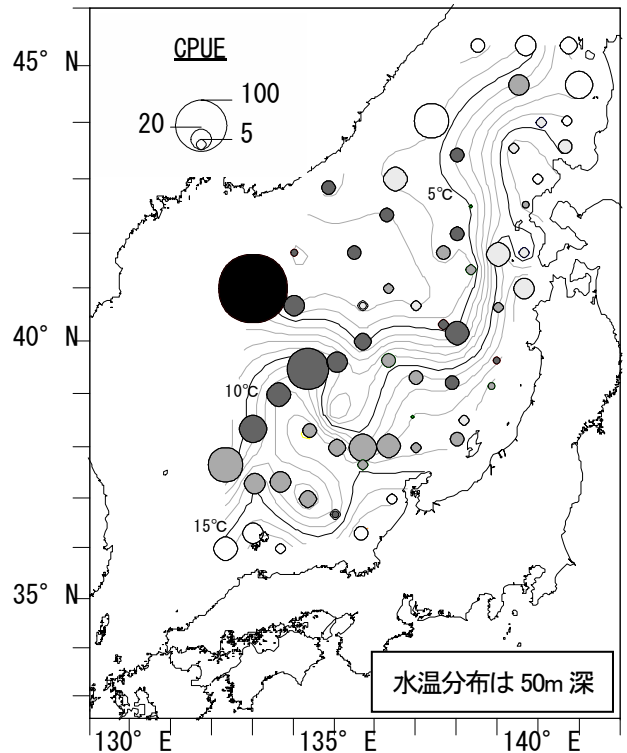
※CPUE: 釣機1台1時間あたりの漁獲尾数

(2) 日本海全体の状況

日本海区水産研究所の取りまとめによると、すべての調査点におけるCPUEの平均は16.24尾で、昨年（12.07）は上回ったものの、過去5年間の平均（19.74）は下回った。分布状況を見ると、日本海北部の分布密度が低く、日本海西部では沖合ほど分布密度が高く大型であった。今年のスルメイカは、5月までは本州北部日本海まで順調に北上し、近年並み～やや上回る漁獲量であったものの、津軽海峡西方の冷水の張り出しが強かったため、その後の北上は遅れる傾向になり、津軽～道北の漁獲量は近年平均を下回った。

今後の見通しとしては、日本海西部および沖合域において10月は近年並み～11月以降は近年を下回る、日本海北部においては全般に近年を下回ると予想される。

この調査では、各機関により標識放流が行われました。標識の付いたスルメイカが採捕されましたら、水産試験場までご連絡ください。（河野 展久）



平均外套背長 (cm)

～16	17～18	19～20	21～22	23～
-----	-------	-------	-------	-----

「キジハタ養殖指針」がついに完成！

キジハタは「ハタ類の中でも特に美味しい」とか、「マハタより美味しい」等の評価が与えられており、常に高値で取引されている高級魚です。福井県では、近年10トン余りの漁獲量がありますが、そのほとんどは9～10月の台風などの時化後にまとまって漁獲されています。また、瀬戸内海では磯根に付きやすい魚であることから、栽培魚種として盛んに放流されています。しかし、養殖は全国的に未だ行われていないことから、私たちにとっては何時でも食べたい時に食べられる魚ではありません。

そこで、水産試験場では、平成2年からキジハタの種苗生産および養殖飼育試験を実施してきました。この十数年間の担当者らの努力の積み重ねによって、ここに他県に先駆けて「キジハタ養殖指針」を完成させることが出来ました。その内容の一部を紹介すると

- ①キジハタは本県沿岸にも生息する暖海性の魚ですが、広範囲の水温耐性を持つことから周年飼育が十分可能です。
- ②既存養殖施設で、トラフグやマダイと同様の飼育方法で養殖でき、他魚種との混合養殖も可能です。
- ③仮に6月頃に30gサイズの種苗を収容し、出荷サイズを全長30cm、体重500gとすると、養殖期間は約2年半となります。
- ④特に大きな疾病はみられませんが、水温が15℃以上でハダムシの寄生による疾病に注意が必要です。
- ⑤千尾当たりの成長や生残、給餌量等のシミュレーションから収入や支出を試算し、養殖の経済性を検討してみました。

といったものです。

福井県ではキジハタの養殖技術の確立に先駆けて、種苗生産技術も開発しておりますので、「キジハタの養殖指針」と同時に「キジハタ種苗生産（マニュアル）」も作成しました。近々、この「キジハタ養殖指針」は養殖業者の方々に配布されることとなっています。

（ 根本 茂 ）

